

震災避難者・移住者 視察交流会 報告書

期 間：2015年7月17日～21日

視察先：高知県高知市、広島県百島

報告者：熊谷勝美, 木村薫

【報告1】

台風が近づいてくる中、2台の車に分乗した総勢10人で四国に向かいました。

高知県では「えんじょいんと香美 (<http://enjoint-kami.org/>) 」という団体と会う予定でした。この団体は、福島からの移住者や高知県内で放射能の影響に不安を抱える家族に対し、高知でできる支援を考え取り組んでいるお母さんたちの団体です。残念なことに、この団体が主催する保養の時期と重なり、今回は残念ながら交流会はできませんでした。

7月18日、高知市内 BAR サルバドールでライブを行い、ここにも何人かの避難者の方とお話を伺いました。

7月19日、高知県四万十川河口の「山みず木」という、宿泊施設も兼ね備えているコンサートホールで、ディープブルースフェスティバルが開かれ、そちらにも参加。主催者は、かけこみ亭にも何回か歌いに来ていました、村井まな・洋平夫妻です。イベントには、震災後、東京などからのUターン・Iターン組や、東北からの移住者の方も来ていて、短い時間でしたが交流することができました。



7月20日、東京から瀬戸内海の百島に移住した花田（花ちゃん）一家を訪問しました。



百島には、若い家族が何世帯か移住していて、その方たちも含めて花ちゃん宅で交流会を催しました。

今回お話を伺った移住者の方たちは、若いご家族が多いと感じました。真剣に子供たちのことを思い自分たちはどうしたら子供たちを守れるのか、そして世の中が平和で楽しく暮らせるのかを考え行動した人たちでした。

今回、僕たちの視察交流において、事前準備等は充分ではなかったと反省しています。何のために僕らは交流会を持とうとしているのか、その意識をもう少し明確にして十分な準備を行ってから向かう必要がありました。

次回、交流会を実施する方には、今回の反省を生かし、是非、交流会の意味目的をよく考えて準備・実施して戴ければと思います。

移住者、避難している方たちの顔が輝いていました。

(記：熊谷 勝美)

【報告2】

かけこみキャラバンの活動の一環として、震災以降、四国へ移住した方々との交流と繋がりを広げ応援しようと、キャラバンメンバーのバンドで高知県へ行ってきました。

2つの会場でライブを行い、交流してきました。つい最近、東京を離れたカップルとも出会いました。家と家財道具を引き払い、これから四国で家を探すのだと楽しそうに話していました。

4月に広島・百島に渡った花ちゃん一家の家でも、埼玉から移住してきた方と知り合いになりました。その方々も家を売り払ってきたと言っていました。沢山の方々が、未だに移住している事に驚きました。

百島の方々にも私達の活動を紹介してきました。百島でもこういったライブイベントができるようにしたいとおっしゃっていました。百島は「移住」と言うよりは新しい生き方を求めて「引っ越し」して来られる方が多いそうです。百島の産業の中心は農業です。

それぞれの会場での模様はまた後ほど掲載いたします。

(報告：木村 薫)

